

2年修学旅行 フィールドワーク

1 目的

2学年の課題研究は、社会課題の調査・分析を行った上でアイデアを考え、解決方法を開発して、社会実装を目指して、取り組んでいる。修学旅行では、学校生活とは異なり、街中を周り、さまざまな場所を訪れる。その街中（観光地中心ではあるが）で、①「あまり気づかれていない課題」を見つけたり、②「興味深い解決策」を考えることで、生徒の課題を発見あるいは解決手法を模索する能力・資質の向上を目的とした。

2 概要

(1) 方法

生徒は4～6人のグループに分かれて、修学旅行期間中に①「あまり気づかれていない課題」または②「興味深い解決策」に関する写真を撮影し、140字以内の文とともに、グーグルスライド1枚にまとめて、提出した。

(2) 対象

2学年生徒（修学旅行のグループごとに実施）

(3) 場所（修学旅行の方面）

広島・兵庫・大阪・京都

(4) 日程

修学旅行期間（11月4日（月）～7日（金））

(5) 内容

SSH（フィールドワーク）担当職員が、各グループで作成したスライドを選考して、最優秀賞1グループ、優秀賞2グループを選出した。課題研究の時間において、2学年生徒に作品を紹介し、表彰式を行った。

(6) 優秀作品紹介

○最優秀賞（2年2組8班）

異文化社会に革命、人類の救済を

異文化社会
広島県は外国観光客が非常に多いため、多様な文化に
適応しなければなりません。
そこで宗教的な観点から、
崇拜所を設けています。
精神の安定を外国人にさせるという
配慮は素晴らしいと思いました。



○優秀賞（2年3組9班）



京都市内の公衆トイレで見つけた 傾斜がついている鏡

壁に鏡がそのままの角度で取り付けられていると、車椅子に乗っている人は高さの関係で鏡に自身の顔まで映らないという不便な思いをする場合がある。そこで傾斜をつけて鏡を設置することで車椅子に乗っている人でも自身の姿を確認できるようにしている。

○優秀賞（2年5組6班）

京都の景観を守る！



犬矢来(いぬやらい)

祇園の街を歩いていると、ふと壁に曲線を描く謎の出っ張りがかっついているのが目にとまった。これは犬矢来というらしい。京都の町家の外壁を守るための竹の柵で、犬の立ち小便や泥はねを防ぐ役目を持ち、同時に町並みに落ち着いた美しさを添えている。機能と美意識が調和した、京都らしい伝統の工夫のひとつとして大切な役割を果たしているのだそう。

3 成果と課題

本校ではここ数年間、歴史的・文化的遺産に接することにより、日本の伝統文化や平和の意味について真摯に考察し、社会に向けた自己の視野を広げることを目的に、広島や関西方面への修学旅行を実施してきた。しかし、観光地を回ることだけではもったいないと考え、そのような目的だけでなく、探究的な視点をもたせる意味で、「フィールドワーク」を4年前から実施している。

生徒たちは、修学旅行本来の目的を達成しながら、探究的な視点で街中を観察している。生徒にとっては、生活圏ではない地域を色々な角度から見ることで、社会の在り方を考える機会となっている。また、情報収集能力や情報処理能力の向上に繋がったと考えている。フィールドワークを探究の質の向上につなげていくことが課題である。